

新技能伝承制度に自信



「技能伝承士」として溶接の技を伝える柴田さん(右)と中嶋さん

アイコクアルファ

自動車部品製造のアイコクアルファ(本社稲沢市祖父江町、樋田克史社長)は、ベテラン社員の技などを若手に伝承する社内制度で技能を底上げする効果を挙げている。2022年に開始し、これまでに累計8件の活動を実施。人と人の密なコミュニケーションでしか伝えられない高度な技を次世代につないでいる。

(勝又佑記)

師弟関係で技つなぐ

同制度では、ベテランと若手が師弟関係を組んでじっくりと技能などを伝える。これまで技能に加えて営業や設計のノウハウなどを伝承する活動が社内で行われている。若手への技能伝承が確認できれば、ベテランを「技能伝承士」として認定する。

営業や設計のノウハウも

このほどRH事業部の柴田淳さん(54)を第1号の技能伝承士として認定した。柴田さんは若手の中嶋亮汰さん(26)に対し、荷物の移動作業を支援するハンドクレーン「ラクラクハンド」の溶接の技を教えた。長年の経験を踏まえ、不良発生の抑制や安全確保のための動作などを伝えた。

特に力を入れて指導したのが溶接の技だ。溶接は熱により材料がひずみやすく、微かな力加減が求められるからだ。柴田さんがまず手本を見せ、その後に中嶋さんがまねて溶接することを繰り返し、細かな勘所の習得をサポートしたという。

柴田さんは「技能伝承では、師弟の信頼関係が大事になる。密にコミュニケーションを取り、お互いに言い合える関係づくりを重視した」と話す。

一方の中嶋さんは「安心して技を覚えることができた。仕事への自信が深まった」と笑顔を見せる。中嶋さんは国内規格に基づく資格「溶接技能者」の評価試験にも合格しており、同社全体の技能のレベルアップに貢献している。